



2020 12月 園だより

認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

遊びは子どもの主食

先日の作品展はいかがだったでしょうか。子どもたちの力作に成長を感じられたことと思います。また、他の子どもたちのすぐれた面も発見できたのではないのでしょうか。バザーは、PTA 役員の方、一人一役の方のご尽力のおかげで無事に終わりました。今年度は、第一部と第二部に分けての開催としましたが、前後半の移動もスムーズで、保護者の方全員のマナーの良さに改めて感服しました。ご協力ありがとうございました。

さて、最近何といってもブームなのが「鬼滅の刃」^{きめつ やいば}。親子ではまっているご家庭も多いと聞きます。園バスの中でも毎日この話題で盛り上がり、私も話について行くために少しだけですが観てみました。



「鬼滅の刃」が社会現象になっている背景に、内容や演出もさることながら、YouTube などの動画投稿サイトや hulu をはじめとした番組配信サービスの普及が挙げられます。テレビ放送を見逃しても、また録画し忘れてもいつでも見られる便利なサービスもあります。さらにスマートフォンでも手軽にいつでもどこでも見られます。流行にやや乗り遅れた人を救ってくれるこのようなサービスのおかげで、多くのファンが生まれたとも言えます。

では、以前はどうだったのでしょうか。実はいつの時代も子ども向けの娯楽が登場し、社会現象を巻き起こしていました。私の場合を振り返ってみます。

昭和後期。白黒テレビでマンガを放送し始めた小学生の頃、週1のささやかな楽しみが増えました。「鉄人28号」、「巨人の星」。厳格な父親も次第に一緒に見るようになっていました。

平成になり、家庭用ゲーム機登場。視力が落ちる、寝不足になる、乱暴になるなどの批判をよそに大ブーム。我が家も買いました。スーパーマリオ。1日30分という約束でしたが、息子と攻略本を読み、ついにクッパを倒して全クリした時には、親子で涙を流し感慨に浸りました。

令和。小2の孫が親のスマートフォンを巧みに操り、DAZNでJ2の地元チームの試合を何度も再生して観ています。初めてその光景を見た時には、スマホで子守りをさせるとはと嘆かわしいものを感じていましたが、これまでの自分を振り返ってみると、これが時代の流れなのだと思うようになりました。そして、今の子どもたちがやがて親になる頃には、スマホに代わる新たな娯楽のツールが登場するのかもしれないね。

しかし、テレビもゲームもスマホも、子どもにとってはあくまで娯楽のツールであって、生活のすべてになってはいけません。娯楽は英語では leisure (レジャー) と言いますが、その本来の意味は、余暇、休息。つまり生活のほんのひとときの楽しみであるはずなのです。

「遊びは子どもの主食」。今の子どもたちの主食が遊びではなくスマホになってはいませんか。

子どもにとっての遊び。それはいつの時代も同じです。外で走り、力を込め、五感を働かせ、目で追い、握りしめ、バランス感覚を養い、汗をかき、スリルを味わい、ときにちょっと血をにじませ、言葉を交わし、共に笑い、本気で怒り、そして夕方には腹ペコになる。晩ご飯をたらふくいただいて満足し、疲れ切って熟睡する。かのスティーブ・ジョブズ氏でさえわが子にタブレットを与えなかったのは、子どもの主食を電子メディアに奪われたくなかったからです。スマホブームを作った張本人でさえ、子育てにはぶれないものがあります。(私と大違いです) テレビもゲームもスマホも、主食ではなく実は副食なのです。(園長 寺本 明生)